



# GREEN LETTER

グリーンレター

**Vol. 263**

2018/11/01

今月の一枚

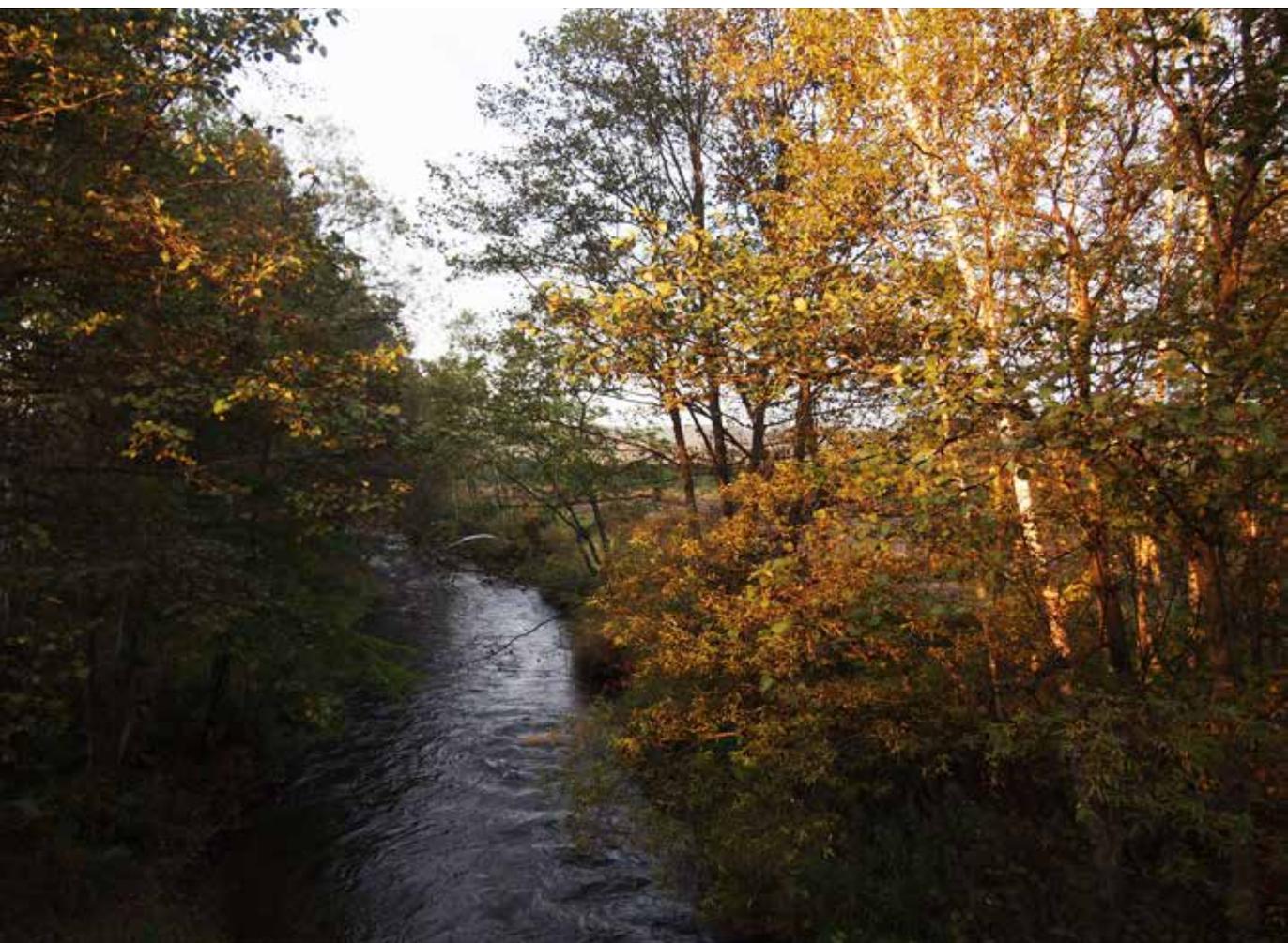
今月のイベント

参加者募集

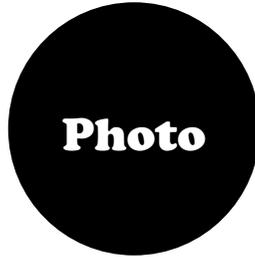
GREEN COLUMN

01. いのちをみつめる

02. 資料の保存について



今月の一枚



## 「樹木のキャンバス」

表紙写真・文／久保田結衣

美幌町福住地区に流れる美幌川です。夕日が、木々の葉や幹に重なり、夕焼けに染められた色と陰のコントラストがとてもきれいでした。一枚の風景画を目にしているような光景は、川のせせらぎも相まって、静寂の美しさを感じられる特別な空間でした。

秋が深まり、美幌町の木々は色づくものもあれば、落葉するものも見られるようになりました。冬に向かう中で、次はどんな景色が見られるのか、今から心を躍らせています。

## Event. 今月のイベント

企画展「交通安全ポスター作文展」 11月2日(金)～25日(日)

プチ工房「葉脈標本」 11月14日(水),16日(金)

## Information. 参加者募集

プチ工房 「葉脈標本」

● 11/14(水), 16(金) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(20円), タオル, お持ちの方は作品を貼りつける透明な空ビン(高さ15cm程度) ●鬼丸和幸(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

今月の休館日

5日, 12日  
19日, 26日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

# 01 GREEN COLUMN

グリーンコラム

## いのちを みつめる

絵／岸本裕躬・文／久保田結衣



岸<sup>きしもとひろみ</sup>本裕躬（1937～2011）は、常呂郡野付牛町（現・北見市）出身の油絵画家であり、幼少から高校生まで美幌町の福住地区に住んでいた経歴を持ちます。多感な時期を、自然豊かな環境で過ごした経験は、生命の在り方を追求する作品を多く生み出しました。描く題材は、魂、人々の日常、自然などの異なるテーマを描いていましたが、共通して、目に見えないモノの本質を表現しました。形にとらわれず、日常風景や自然の営みを大胆に描く。そのまなざしによるダイナミックな構図と色彩感覚には、命の流動を敏感に感じとる繊細さが潜んでいます。

さて、「<sup>たそがれ</sup>黄昏のコスモス」（写真）は、1998年に描かれた油絵で、「黄昏」と「晩秋」を重ねた美しさと、儂く息づく空気が感じられる作品です。花を美しく魅せるだけでなく、朽ちていくプロセスに命の尊さを感じさせる。そ

の一瞬を逃さず描くというのは、岸本裕躬ならではの表現といえます。このように、対比関係にある本質への追求は、「家族」を題材にした作品でも見受けられます。常設展示で公開している「肩車」は、ある親子の様子が描かれています。子供は前を向き、あどけない表情で描かれていますが、親はうつむき、表情に陰りがあります。この作品が示す意図とは…と考えると鑑賞のおもしろさが広がるかもしれません。

これから冬へと季節は進みますが、芸術の秋！ということで、今回は岸本作品を紹介しました。ぜひ芸術鑑賞に、博物館に足を運んでみてください。

## 02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

# 資料の 保存について

写真・文／町田善康



9月28～29日で、北海道の博物館学芸員らが集まり、資料の取り扱いと修復について学ぶ研修会が美幌町で開催されました。今回は、国立科学博物館や北海道博物館協会の協力を得て、佐藤嘉則氏（東京文化財研究所）と岩見恭子氏（山階鳥類研究所）をお迎えした豪華な講師陣による研修でした。

そもそも、美幌博物館での資料保存は、本州に比べて乾燥して冷涼な気候であるため、暗所に置いておけば状態良く保つことができていました。しかし、近年は、夏場に30度を超え、ジメジメするような日が続くので、カビや害虫などが発生することもしばしばあります。恥ずかしい話ですが、かつて美幌博物館でもカビが発生し、職員全員でその対応に追われたことがあります。その教訓もあり、資料の保存について専門家からじっくり学ぶこと

になりました。

佐藤氏、岩見氏ともにお話は目からウロコがボロボロと落ちるもので、すぐにでも取り組まなければならないことが多々ありました。特に、収蔵庫内の清掃では、あまり頻繁に扱っていない液浸標本の瓶の上や本剥製の展示台の上にカビの生えることがわかり、早速清掃をしました。また、収蔵されている剥製の修復にも取り組み、1990年代に作成された処理不十分な鳥類標本をクリーニングしました。

こうした日々の積み重ねによって、貴重な資料を後世に残せるのだと改めて感じ、今回の研修会は背筋を正す良い機会となりました。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 ( 72 ) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

## 学芸員のつぶやき



プロの写真家と一緒に、魚の撮影に行きました。  
冷たい川に潜って1日。写真家の方は朝から夕方まで、ほとんど川から上がることなく撮影を続けていました。一方、私は川のほとりで魚を見たり、おにぎりを食べたりして過ごしました。やっぱりプロは違いますね。(町田)